

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者発生に伴う 注意喚起について

相模原市在住の80歳代の女性が、令和8年5月9日にダニ媒介感染症である重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome（以下、「SFTS」といいます。））と診断されました。当該患者の疫学調査を行った結果、推定感染地域が市内であることが判明しましたので、お知らせします。なお、SFTS患者の推定感染地域が市内であるのは初事例となります。

SFTSは、主にSFTSウイルスを保有するマダニに刺されることで感染します。春から秋にかけては、マダニの活動が盛んになるため、特に注意が必要です。草むらや藪などに入る場合は、肌の露出を少なくし、虫よけ剤を使用するなどして、マダニに刺されないようにしましょう。

1 患者の概要

- (1) 年代・性別：80歳代・女性
- (2) 居住地：相模原市緑区在住
- (3) 主な症状：発熱、下痢、腹痛、肝障害、全身倦怠感など
- (4) 現在の状況：医療機関に入院中（軽快傾向）
- (5) 推定感染地域：患者の行動歴を調査したところ、自宅周辺で畑仕事等を行った際にマダニに刺され、感染したことが疑われる。

2 経過

- 令和8年4月29日（水）発症（発熱、関節痛など）
4月30日（木）医療機関を受診
5月8日（金）医療機関から市保健所へSFTS疑いとして検体提出
5月9日（土）検査にて診断確定、発生届出受理

3 発生状況

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
相模原市	0	1※1	0	0	1
全国	118	134	120	191※2	18※2

※1 令和5年の事例については、推定感染地域が九州地方

※2 令和8年4月26日時点の暫定値（国立健康危機管理研究機構）

【市民の皆様へ（注意喚起）】

- ・別紙「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について」をご確認ください。
- ・ご心配なこと等がありましたら、疾病対策課へご連絡ください。

【医療機関の皆様へ】

- ・臨床症状や患者の行動歴等からSFTSを疑った場合は、速やかに疾病対策課へご相談ください。
- ・SFTSを疑う患者を診察する際は、適切な感染対策を実施いただくようお願いいたします。

※報道機関各位におかれましては、プライバシー保護等の観点から、患者及び患者家族等が特定されないことがないよう、格段のご配慮をお願いいたします。

問い合わせ先

健康福祉局保健衛生部疾病対策課

電話 042-769-7201

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について

SFTS とは？

- ・主に SFTS ウイルスを保有しているマダニに刺されることで感染します。
- ・潜伏期間は、6日から14日程度です。
- ・主な症状は、発熱、消化器症状(嘔気、嘔吐、腹痛、下痢等)、出血症状等を起こします。日本における SFTS 患者の致死率は約10～30%です。
- ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)の四類(全数届出)感染症に位置づけられています。

◇感染経路

主に SFTS ウイルスを保有しているマダニに刺されることにより感染しますが、近年、SFTS ウイルスに感染した動物から人への感染も報告されています。

◇予防方法

- ・マダニに刺されないようにすることが重要です。
- ・マダニは主に森林や草地などの屋外に生息しています。
- ・草むらや藪などに入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。
- ・DEETやイカリジン配合の虫よけ剤の併用も効果的です。なお、年齢によっては使用できない等注意があるため、取扱説明書に沿って使用してください。
- ・屋外活動後は入浴し、マダニに刺されていないかを確認しましょう。
- ・ペットがマダニに刺されないようにしましょう。散歩後の体表チェックや目の細かい櫛にかけること、ペット用のダニ駆除剤の使用も効果的です。また、動物に触ったら必ず手を洗いましょう。

◇マダニに刺されたら

- ・マダニ類の多くは、人や動物に取り付くと、皮膚に口器を突き刺し、長時間(数日から長いもので10日間)吸血します。
- ・吸血中のマダニを見つけた場合は、自分で取ろうとせず、医療機関で処置しましょう。無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残り化膿したり、マダニの体液を逆流させて病原体が体内に入りやすくしてしまう恐れがあります。
- ・マダニに刺された後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状があった場合は、すみやかに医療機関を受診しましょう。その際、マダニに刺されたことを医師に説明してください。